

資本とERM(その1)

有限責任監査法人トーマツ

ディレクター 後藤 茂之

1. ERMにおける資本

ERMにおいて、資本は二つの機能を果たしている。すなわち、①レジネス遂行に伴う不確実性から生じる潜在的な損失に対し、企業が備えておくべき資金(財務健全性の確保)、②保有している資金を活用して、グループ全体として効率的なリスクテイクを行い、収益性を向上させる(資本効率の追求)——と2点である。

このように資本は、重要な手段であるが故に、保険会社はリスクに対してどの程度の資本を確保しておくべきか(財務健全性の管理)、保有しようにするリスクに対して資本を配賦し、リスク、資本を体系的に管理する仕組みが組み込まれている。これを図示すると、図表1の通りである。

ERMにおいて、資本は二つの機能を果たしている。すなわち、①レジネス遂行に伴う不確実性から生じる潜在的な損失に対し、企業が備えておくべき資金(財務健全性の確保)、②保有している資金を活用して、グループ全体として効率的なリスクテイクを行い、収益性を向上させる(資本効率の追求)——と2点である。

ERMにおいて、資本は二つの機能を果たしている。すなわち、①レジネス遂行に伴う不確実性から生じる潜在的な損失に対し、企業が備えておくべき資金(財務健全性の確保)、②保有している資金を活用して、グループ全体として効率的なリスクテイクを行い、収益性を向上させる(資本効率の追求)——と2点である。

ERMにおいて、資本は二つの機能を果たしている。すなわち、①レジネス遂行に伴う不確実性から生じる潜在的な損失に対し、企業が備えておくべき資金(財務健全性の確保)、②保有している資金を活用して、グループ全体として効率的なリスクテイクを行い、収益性を向上させる(資本効率の追求)——と2点である。

ERMにおいて、資本は二つの機能を果たしている。すなわち、①レジネス遂行に伴う不確実性から生じる潜在的な損失に対し、企業が備えておくべき資金(財務健全性の確保)、②保有している資金を活用して、グループ全体として効率的なリスクテイクを行い、収益性を向上させる(資本効率の追求)——と2点である。



【後藤茂之氏プロフィール】

大手損害保険会社および保険持ち株会社にて、企画部長、リスク管理部長を歴任。日米

保険交渉、合併・経営統合に伴う経営管理体制の構築、海外M&A、保険ERMの構築、グループ内部モデルの高度化、リスクアペタイト・フレームワーク、ORSAプロセス整備に従事。IAIS, Geneva Association, EAIICなどのE

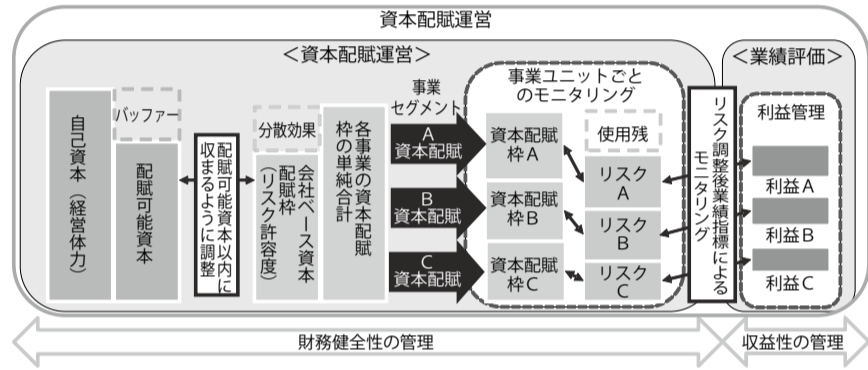
ERM関連パネルに参加。現職にて、ERM高度化関連コンサルに従事。

大阪大学経済学部卒業、コロンビア大学ビジネススクール日本経済経営研究所・客員研究員、中央大学大学院総合政策研究科博士課程修了。博士(総合政策)。

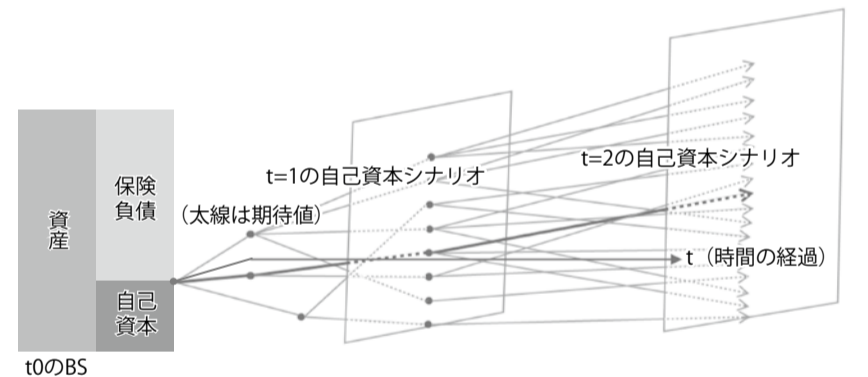
ERM関連パネルに参加。現職にて、ERM高度化関連コンサルに従事。

大阪大学経済学部卒業、コロンビア大学ビジネススクール日本経済経営研究所・客員研究員、中央大学大学院総合政策研究科博士課程修了。博士(総合政策)。

図表1 資本配賦運営



図表2 自己資本の多様なシナリオ



図表2 自己資本の多様なシナリオ
t0のBS
資産
負債
自己資本
t1の自己資本シナリオ
t2の自己資本シナリオ
(太線は期待値)

ERMにおいて、資本は二つの機能を果たしている。すなわち、①レジネス遂行に伴う不確実性から生じる潜在的な損失に対し、企業が備えておくべき資金(財務健全性の確保)、②保有している資金を活用して、グループ全体として効率的なリスクテイクを行い、収益性を向上させる(資本効率の追求)——と2点である。

ERMにおいて、資本は二つの機能を果たしている。すなわち、①レジネス遂行に伴う不確実性から生じる潜在的な損失に対し、企業が備えておくべき資金(財務健全性の確保)、②保有している資金を活用して、グループ全体として効率的なリスクテイクを行い、収益性を向上させる(資本効率の追求)——と2点である。

ERMにおいて、資本は二つの機能を果たしている。すなわち、①レジネス遂行に伴う不確実性から生じる潜在的な損失に対し、企業が備えておくべき資金(財務健全性の確保)、②保有している資金を活用して、グループ全体として効率的なリスクテイクを行い、収益性を向上させる(資本効率の追求)——と2点である。

ERMにおいて、資本は二つの機能を果たしている。すなわち、①レジネス遂行に伴う不確実性から生じる潜在的な損失に対し、企業が備えておくべき資金(財務健全性の確保)、②保有している資金を活用して、グループ全体として効率的なリスクテイクを行い、収益性を向上させる(資本効率の追求)——と2点である。

(4面からつづく)

資本の希少性が引き起こす現象は、保険引き受け(リスクテイク)のためには資本が必要であるという論理に基づいており、保険会社や保険市場のキャパシティに影響を及ぼしている。

保険ERMでは、資本の状況(十分性、希少性)に留意する必要があり、資本の希少性を引き起こす事態に対し、その影響をあらかじめ低下させるための対処も検討される。例えば、再保険やキャット・ボンドなど

(本稿、「不確実性とERMその2」参照)を活用してリスクそのものを低下させたり、このようなイベントと資本との関係

をあらかじめ見越して、平時において、ストレス事象発生時に資本増強を図れるよう新株発行

予約を行ったりする対応も取られる。後者をコンティンジェンシー・キャピタルと呼んでいる。コンティンジェンシー・キャピタルにおける資本への振替条件(トリガー)

としては、自然災害の累積損害額や株価指数の下落などといった、将来の資本減少の原因となるイベントが設定されること

が多い。

(つづく)

◇ (注1) 統計学で母数がどのような数値の範囲にあるかを確率的に示す方法である。「信頼水準

99%、99.5%」と表現する。感覚的に理解しやすいように、「100年に1度の頻度、200年に1度の頻度で発生する程度の数値」と説明することも多い。

(注2) MCEV、E

EV共に生保の保有契約価値と純資産価値の合計で、潜在的価値を評価する枠組み。生保の保有契約が将来生む収益は、現時点では、責任準備金の中にエンベツトされている(埋め込まれている)と考えられることから、こう呼ばれている。

(注3) 欧州連合(EU)が、EU域内の上場企業の連結財務諸表に適用を義務付けている基準。

(注4) 2016年1月に導入された、EUの経済価値ベースの保険ソルベンシー規制。

(注5) 保険会社が将来の保険金や給付金を支払うために、保険業法上積み立てが義務付けられているもの。

(注6) 支払い義務が発生しているが保険金を支払っていないものを、決算期に積み立てが義務付けられているもの。

(注7) ある感染症(特に伝染病)の世界的な流行のこと。

(文中の意見に当たる

部分は執筆者個人のものであり、所属する組織のものではありません)

◆この連載は隔週木曜日に掲載します。